

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年2月14日 (2008.2.14)

【公表番号】特表2002-542305(P2002-542305A)

【公表日】平成14年12月10日 (2002.12.10)

【出願番号】特願2000-613478(P2000-613478)

【国際特許分類】

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/711 (2006.01)

A 6 1 K 35/76 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/22 (2006.01)

A 6 1 K 38/36 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 31/711

A 6 1 K 35/76

A 6 1 K 39/395 M

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 37/04

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 37/24

A 6 1 K 37/46

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 5/00 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成19年9月13日 (2007.9.13)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 免疫応答を刺激するための組成物であって、該組成物は、1 位以上の異種エピトープをコードする核酸配列に作動可能に連結された造血細胞特異的発現エレメントを含む核酸分子がエキソビボで投与されたリンパ球を含む、組成物。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の組成物であって、ここで前記リンパ球が、血液、または、脾臓、リンパ節、粘膜関連リンパ組織 (M A L T)、扁桃、パイアー斑、鼻腔関連リンパ組織 (N A L T)、ヴァルダイアー環、および尿生殖器リンパ組織からなる群より選択されるリンパ組織に由来する、組成物。

【請求項 3】 請求項 1 に記載の組成物であって、前記異種エピトープが、C D 4 エピトープ、C D 8 エピトープ、2 つの C D 4 エピトープおよび 2 つの C D 8 エピトープからなる群より選択される T 細胞エピトープである、組成物。

【請求項4】 請求項1に記載の組成物であって、前記発現エレメントが、B細胞およびT細胞からなる群より選択される細胞中で機能する、組成物。

【請求項5】 前記エピトープが抗体応答を刺激する、請求項1に記載の組成物。

【請求項6】 前記エピトープがCD4 T細胞応答を刺激する、請求項1に記載の組成物。

【請求項7】 前記エピトープがCD8 T細胞応答を刺激する、請求項1に記載の組成物。

【請求項8】 前記エピトープがCD4 T細胞応答およびCD8 T細胞応答を刺激する、請求項1に記載の組成物。

【請求項9】 請求項1に記載の組成物であって、前記エピトープのうちの1つが抗体応答を刺激し、そして1以上の第2のエピトープがCD4 T細胞応答およびCD8 T細胞応答を刺激する、組成物。

【請求項10】 前記エピトープがサイトカインとの融合物として発現される、請求項1に記載の組成物。

【請求項11】 前記サイトカインが、顆粒球マクロファージコロニー刺激因子、インターロイキン-2、インターロイキン-4、インターフェロン- γ 、インターロイキン-5、インターロイキン-6、インターロイキン-10、およびインターロイキン-12からなる群より選択される、請求項9に記載の組成物。

【請求項12】 前記核酸分子が、前記T細胞エピトープを含む免疫グロブリン分子をコードし、ここで該エピトープは、該免疫グロブリン分子の相補性決定領域(CDR)中に挿入されている、請求項1に記載の組成物。

【請求項13】 前記免疫グロブリンが可変領域を含む、請求項12に記載の組成物。

【請求項14】 前記可変領域が重鎖可変領域である、請求項13に記載の組成物。

【請求項15】 前記可変領域が軽鎖可変領域である、請求項13に記載の組成物。

【請求項16】 前記免疫グロブリン分子が重鎖を含む、請求項12に記載の組成物。

【請求項17】 前記免疫グロブリン分子が軽鎖を含む、請求項12に記載の組成物。

【請求項18】 免疫応答を刺激するための組成物であって、該組成物は、1位以上の異種エピトープをコードする核酸配列に作動可能に連結された造血細胞特異的発現エレメントを含む核酸分子がエキソビボで投与されたリンパ球を含み、ここで該リンパ球が、血液に由来するか、または、リンパ節、粘膜関連リンパ組織(MALT)、扁桃、パイアー斑、鼻腔関連リンパ組織(NALT)、ヴァルダイア環、および尿生殖器リンパ組織からなる群より選択されるリンパ組織に由来する、組成物。

【請求項19】 請求項18に記載の組成物であって、前記異種エピトープが、CD4エピトープ、CD8エピトープ、2つのCD4エピトープおよび2つのCD8エピトープからなる群より選択されるT細胞エピトープである、組成物。

【請求項20】 請求項18に記載の組成物であって、前記発現エレメントが、B細胞およびT細胞からなる群より選択される細胞中で機能する、組成物。

【請求項21】 前記エピトープが抗体応答を刺激する、請求項18に記載の組成物。

【請求項22】 前記エピトープがCD4 T細胞応答を刺激する、請求項18に記載の組成物。

【請求項23】 前記エピトープがCD8 T細胞応答を刺激する、請求項18に記載の組成物。

【請求項24】 前記エピトープがCD4 T細胞応答およびCD8 T細胞応答を刺激する、請求項18に記載の組成物。

【請求項25】 請求項18に記載の組成物であって、前記エピトープのうちの1つが抗体応答を刺激し、そして1以上の第2のエピトープがCD4 T細胞応答およびCD

8 T細胞応答を刺激する、組成物。

【請求項26】 前記エピトープがサイトカインとの融合物として発現される、請求項18に記載の組成物。

【請求項27】 前記サイトカインが、顆粒球マクロファージコロニー刺激因子、インターロイキン-2、インターロイキン-4、インターフェロン- γ 、インターロイキン-5、インターロイキン-6、インターロイキン-10、およびインターロイキン-12からなる群より選択される、請求項26に記載の組成物。

【請求項28】 前記核酸分子が、前記異種エピトープを含む免疫グロブリン分子をコードし、ここで該エピトープは、該免疫グロブリン分子の相補性決定領域(CDR)中に挿入されている、請求項18に記載の組成物。

【請求項29】 前記免疫グロブリンが可変領域を含む、請求項28に記載の組成物。

【請求項30】 前記可変領域が重鎖可変領域である、請求項29に記載の組成物。

【請求項31】 前記可変領域が軽鎖可変領域である、請求項29に記載の組成物。

【請求項32】 前記免疫グロブリン分子が重鎖を含む、請求項28に記載組成物。

【請求項33】 前記免疫グロブリン分子が軽鎖を含む、請求項28に記載組成物。

【請求項34】 核酸分子であって、異種ポリペプチドをコードする核酸配列に作動可能に連結された造血細胞特異的発現エレメントを有し、ここで、該異種ポリペプチドは2以上のT細胞エピトープを含み、ここで、該T細胞エピトープは、CD4エピトープ、CD8エピトープ、2つのCD4エピトープおよび2つのCD8エピトープからなる群より選択される、核酸分子。

【請求項35】 前記異種ポリペプチドが、1以上のB細胞エピトープをさらに含む、請求項34に記載の核酸分子。

【請求項36】 前記発現エレメントが、B細胞およびT細胞からなる群より選択される細胞中で機能する、請求項34に記載の核酸分子。

【請求項37】 前記核酸配列が、サイトカインとの融合物として発現されるポリペプチドをコードする、請求項34に記載の核酸分子。

【請求項38】 前記サイトカインが、顆粒球マクロファージコロニー刺激因子、インターロイキン-2、インターロイキン-4、インターフェロン- γ 、インターロイキン-5、インターロイキン-6、インターロイキン-10、およびインターロイキン-12からなる群より選択される、請求項37に記載の核酸分子。

【請求項39】 核酸分子であって、2以上の異種T細胞エピトープをコードする核酸配列に作動可能に連結された造血細胞特異的発現エレメントを含み、ここで、該核酸配列は、該2以上のエピトープ含む免疫グロブリン分子をコードし、そして該2以上のエピトープは、該免疫グロブリン分子の相補性決定領域(CDR)中に挿入されており、ここで該2以上のT細胞エピトープは、CD4エピトープ、CD8エピトープ、2つのCD4エピトープおよび2つのCD8エピトープからなる群より選択される、核酸分子。

【請求項40】 1以上のB細胞エピトープをさらに含む、請求項39に記載の核酸分子。

【請求項41】 前記免疫グロブリンが可変領域を含む、請求項39に記載の核酸分子。

【請求項42】 前記可変領域が重鎖可変領域である、請求項41に記載の核酸分子。

【請求項43】 前記可変領域が軽鎖可変領域である、請求項41に記載の核酸分子。

【請求項44】 前記2以上のエピトープが2つのCDR中に挿入されている、請求項39に記載の核酸分子。

【請求項45】 前記エピトープが、サイトカインとの融合物として発現される、請求項39に記載の核酸分子。

【請求項46】 前記サイトカインが、顆粒球マクロファージコロニー刺激因子、イ

ンターロイキン－２、インターロイキン－４、インターフェロン－γ、インターロイキン－５、インターロイキン－６、インターロイキン－１０、およびインターロイキン－１２からなる群より選択される、請求項４５に記載の核酸分子。

【請求項４７】 状態を処置するための組成物であって、異種ポリペプチドをコードする核酸配列に作動可能に連結した、Ｂ細胞特異的発現エレメントを含む核酸分子を含む非ウイルスベクターを包含し、ここで、該核酸分子が、Ｂ細胞に標的化されかつ該異種ポリペプチドを発現し、ここで、該異種ポリペプチドは、ＣＤ４エピトープ、ＣＤ８エピトープ、２つのＣＤ４エピトープおよび２つのＣＤ８エピトープからなる群より選択されるＴ細胞エピトープを含む、。

【請求項４８】 前記造血細胞がエキソビボで標的化される、請求項４７に記載の組成物。

【請求項４９】 前記造血細胞がインビボで標的化される、請求項４７に記載の組成物。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】０１５７

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【０１５７】

これらの結果は、２つのＴｈ細胞決定因子Ｔ細胞の連結された結合が、弱いＴ細胞決定因子（例えば、腫瘍抗原）に対して免疫するために利用することができることを示す。これらの結果は、体細胞導入遺伝子免疫の原理に沿った免疫化のために使用される遺伝子における連結されたＴｈ／Ｔｈ結合が、本来であれば乏しいまたは非免疫原性Ｔｈ細胞決定因子を免疫原性し得ることを示す。これらの結果は、この原理は、強力なＴ細胞免疫が所望されるすべての抗原に対してワクチン接種するために適用可能であることを示す。